

# 「道徳の時間」学習指導案

( T 1 )

( T 2 )

1 学 年 自閉症・情緒障害特別支援学級（みどり7組） 第4学年 8名

2 主題名 分かり合う友達 内容項目 B－友情，信頼

3 教材名 なんとなく （出典：「4年生のどうとく」文溪堂）

## 4 主題設定の理由

- 友達とは、共に学んだり遊んだりすることを通して互いに時間をかけてよい関係を構築していくものであり、どちらかが一方的に思っている、関係を高めていくことはできない。自分の思いや考えなどを伝え、相手の思いや考えを受け止めることで理解し合い、時には折り合いをつけながら、互いの良さを引き出し、成長し合うものである。

子ども達にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、安心して楽しく過ごすためには欠くことのできないものである。しかし、この時期の児童は、いつも遊んでいる友達との時間が増えるだけでなく、その場が楽しければ良いという軽い関係であるものや、ただ単に気が合うから、利害が一致するからなどの理由で、仲よくすることに留まる表面的な友達であることも多い。

そこで、友達とは、利害関係ではなく、友達のことを互いに理解し合い、信頼し、助け合うことで、みんなが仲良く、楽しく生活していくための支えとなるような友達関係を築いていくことが大切であると考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童の実態を把握するため、事前の意識調査を行った。  
実態調査から見られる本学級の「友情，信頼」についての実態を次のように分析した。  
※実態調査の結果及び、個に係る実態については別紙参照
  - ・「友達と分かり合えているか」との問いに、半数の児童は肯定的な評価であったが、「友達がすることが分からない」、「分かってくれない時がある」などの否定的な理由であっても肯定的な評価で回答をした児童もいた。さらに、否定的な回答をした児童の中には、「分かれようとしていない」「気にしていない」などの回答もあるなど、友達への理解については意識がないことが分かった。
  - ・「友達と分かり合うために大切なこと」との問いに、「分からない」、「ない」など具体的な考えを出せない児童もいたが、「気持ち」や「話し合う」などのキーワードで考えを出す児童もおり、友達のことを思う気持ちの大切さは感じていることも分かった。
  - ・本学級の児童は、相手の気持ちを考えることが難しく、自分の思いで判断し、行動してしまうことにより、些細なことがきっかけで友達同士でトラブルとなることも少なくはない。しかし、お互いの思いを伝え、どうすればよかったのかを話し合う中で、お互いの気持ちを理解し解決の方法を見つけ出すようにしている。休憩時間になるとお互いを誘って外に遊びに出たり、係活動でも協力したり活動したりしながら、友達との関わり合いを通して、友達の良さや、助け合うことの大切さを実感してきている。
- 指導にあたって、導入では、事前に行った実態調査をもとに友達との関わりについて

児童自身に語らせることで教材への方向付けをしていく。

基本発問では、自分にも同じようなことはないか考えさせながら、友達への嫌悪感を抱いている主人公のみどりの気持ちに共感させる。

中心発問では、心配そうに自分を見ているやよいの様子から、いつも自分のことを考えてくれていたやよいの良さに気が付いたみどりの心情を考えさせていくことで、自分のことだけでなく、友達のことを考え、相手の気持ちを理解することが大切であることを理解させていく。また、やよいの気持ちに気が付いたみどりのやよいへの思いの変化を振り返ることで、友達と分かり合うためには、自分の思いを一方向的に伝えるのではなく、相手の気持ちを考えること、相手の気持ちを受け止めることなどを通して、お互いに気持ちを向け合うことなどが必要なことを考えさせていく。

終末では、児童自身の友達との関わり方を振り返らせていく。経験と重ね合わせながら考えていくことで、より良い友達関係の在り方を考えさせていきたい。

## 5 他教科等との関連

福山 100NEN 教育における本校の【21世紀型“スキル&倫理観”】においては、特別支援学級の目標である「自分がされていやなことは友達にせず、されてうれしいことができる子」（他者への思いやり）「友達の思いを受け止め、自分の思いや考えを伝えられる子」（コミュニケーション能力）に関連している。

今年度の児童は、自立活動でのソーシャルスキルトレーニングやコミュニケーションスキルの取り方を学習するとともに、特別活動での話し合いなども通して互いを高め合う存在としての友達との人間関係を深めているところである。また、みどり学級だけでなく、交流学級の友達とも関わり合う中で、互いの立場に立って考え、相手に合わせた思いやりのある声掛けの仕方などを学習している。本時においては、これらの経験と結びつけながら、自分を視点としての考え方だけでなく、相手や周囲からの視点も意識できるように指導を行っていく。

## 6 ねらい

お互いに自分の思いや考えを伝え合っていくことが友達と分かり合うことにつながっていることを理解し、友達と互いに理解し合おうとする態度を養う。

## 7 準備物 場面絵 短冊 座席表 ワークシート（個別に用意したもの）

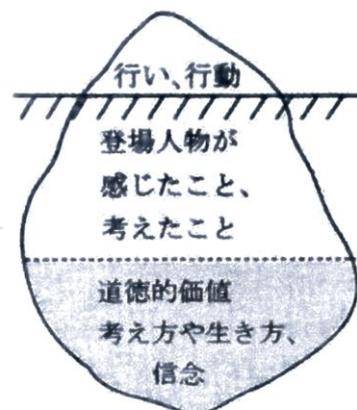




( みどり ) 年 ( 7 ) 組

内容項目 B-友情・信頼

教材名 なんとなく



### 【道徳的価値の自覚を深める指導にするために】

行い 行動	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分が忘れ物をしたとき、やよいさんが心配してくれていたことに気が付いた。</li><li>・みどりは、やよいさんとしっかり分かり合える友達になりたいと思った。</li></ul>
登場人物が 感じたこと 考えたこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・やよいさんは、いつもわたしのことを心配してくれていたんだ。</li><li>・今まで、全然気が付かなかった。</li><li>・自分のことばかり考えてしまっていた。</li><li>・けんかをした時には、いつも友達から謝ってもらっていたけど、自分からも謝れるようにしよう。</li><li>・今までよりももっと友達を大切にしていきたい。</li><li>・自分のことばかりではなく、友達の話もきちんと聞こう。</li></ul>
道徳的価値 考え方 生き方 信念	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分のことばかり伝えるのではなく、友達の話を聞くことで、友達のことをもっと知ることができる。</li><li>・自分のことも分かってもらうためには、まずは、相手のこと分かるようにすることが大事。</li><li>・本当に仲良くなるためには、気持ちを伝え合うことが大切。</li></ul>